

発育発達論		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目 スポーツトレーナーコースの専門選 択科目 教職科目 柔道整復師コース専門基礎科目 柔道整復師コース教職科目	科目ナンバリング	11322205 11532209 12311203 12532209 13220210 13532209

1. 授業のねらい・概要

発達とは、成長に伴って人体に有する組織や器官が変化し、それらの諸機能が発現する過程をいう。スポーツに関わる専門職を志す者にとって、各発達期における行動様式や精神活動の特徴を把握することは、障害予防の観点から運動指導の在り方を考える上で大変重要である。この授業では、人間発達学の概念を学ぶことから始め、さらに代表的な発達理論に触れた上で、各発達期における身体的・生理的・運動的機能の発達を中心に学習する。さらに、各発達期における代表的な問題点と対応方法（特にスポーツとの関連性）についても理解を深める。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、授業内で説明した重要語句の意味やそれらの関連性をまとめた「発育発達論レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス 人間発達学の概念（発達に関する用語、発達期の区分、発達の原則） 2. 発達理論（歴史的変遷、エリクソンのライフサイクル理論、ピアジェの発生的認知理論） 3. 新生児期の発達（健康状態の指標、測定分類、ハイリスク要因） 4. 乳児期の発達①（身体的発達、運動機能の発達：原始反射） 5. 乳児期の発達②（運動機能の発達：姿勢反射、平衡反応） 6. 幼児期の発達①（身体的発達、運動機能の発達：歩行） 7. 幼児期の発達②（運動機能の発達：上肢機能）	8. 学童期の発達①（身体の変化、運動機能の変化） 9. 学童期の発達②（子どものロコモティブシンドローム） 10. 成長期スポーツ障害①（成長期の骨への障害、投球障害） 11. 成長期スポーツ障害②（ランニング障害、女性アスリートと骨障害） 12. 高齢期の加齢変化①（フレイルとロコモティブシンドローム） 13. 高齢期の加齢変化②（サルコペニア） 14. 障害（身体障害、精神障害、知的障害、発達障害） 15. まとめ
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「発育発達論レポート」作成に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（30分程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については模範解答例を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、各発達期における発育発達の特徴をただ暗記するだけでなく、その知識を用いて運動指導に役立てることができるよう統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポート）（約 30％程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約 70％程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時には配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。